日本総研 リサーチ・アイ
The Japan Research Institute, Limited
No.2010-073
2011年3月7日
http://www.jri.co.jp

依然脆弱な米国雇用情勢

～ 生産年齢では労働力人口の減少と非労働力人口の増加が継続 ～

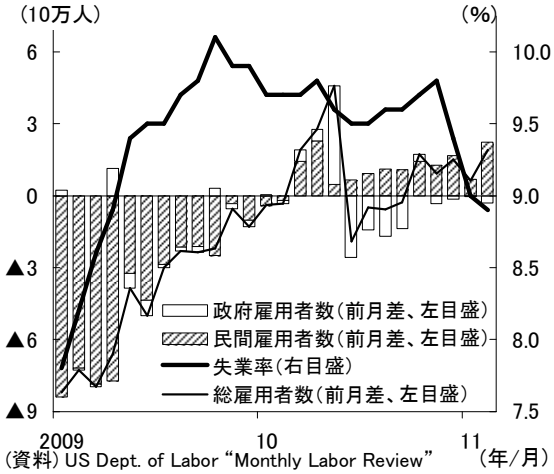
（１）2011年２月の米国雇用統計は市場予想を上回る改善。雇用者数は前月比19.2万人増加し、失業率は8.9%へ低下（図表１）。とりわけ民間雇用は前月比22.2万人増と好調。直近ボトムの昨年２月比でみると、雇用者数は126.9万人増加、民間部門の雇用者数は152.6万人の増加。

（２）さらに、２月最終週の新規失業保険申請件数は前週比２万件減って36.8万件に（図表２）。08年５月以来の低水準であり、雇用情勢好転を示唆。しかしフードスタンプ受給者数に目を転じてみると、増勢が持続。09年はリーマン・ショック直後のため、10年入り後の推移をみても、失業保険申請件数が横這いから年央以降減勢に転じるなか、増加ペースに変化なし。

（３）米国雇用情勢に従来と異なる動きが生じている可能性。そこで雇用者数と非労働力人口の推移をみると、10年に入り、雇用者数が緩やかに増加するなか、非労働力人口は月次の変動を伴いつつも引き続き急増（図表３）。本来、雇用情勢が好転すれば、就業を諦め労働市場から退出していた人が労働市場に戻り、非労働力人口が減る、あるいは、少なくとも増勢が鈍化する筋合い。

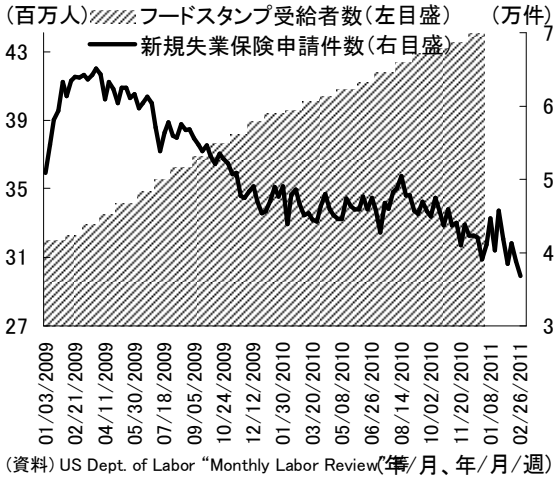
（４）もっとも近年、米国でも高齢化が進行。高齢者の非労働力人口の増加に起因する側面も。そこで、やや長い視点から16～64歳の動向を辿ると、このところ非労働力人口の増加と労働力人口の減少が一段と顕著（図表４）。11年２月では雇用者数は同７万人増加したものの、労働力人口が前月比▲23.6万人の減少、非労働力人口は同28.2万人の増加。一部で明るさが拡がり始めるなか、労働市場から退出する動きは終息せず、全体として雇用情勢は依然脆弱。

（図表1）雇用者数と失業率の推移（季調済）



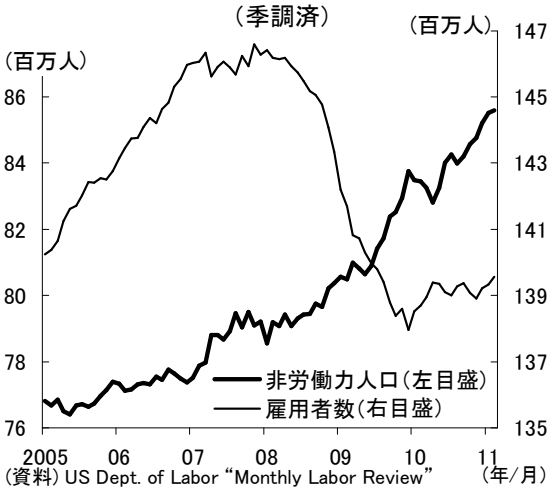
（資料）US Dept. of Labor “Monthly Labor Review”

（図表2）新規失業保険申請件数とフードスタンプ受給者数



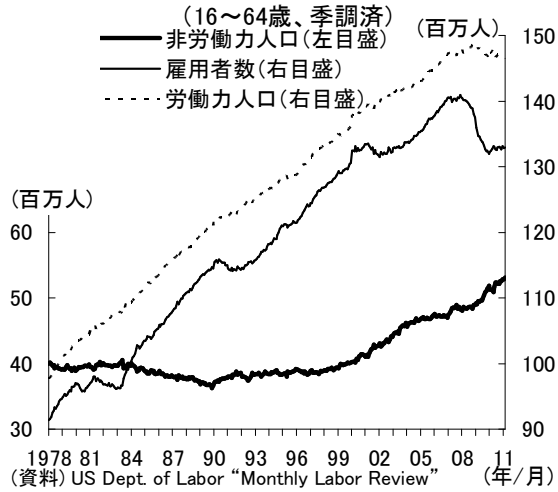
（資料）US Dept. of Labor “Monthly Labor Review”

（図表3）雇用者数と非労働力人口の推移



（資料）US Dept. of Labor “Monthly Labor Review”

（図表4）雇用者数と労働力・非労働力人口



（資料）US Dept. of Labor “Monthly Labor Review”

《ご照会先》日本総研調査部　藤 井（fujii.hidehiko@jri.co.jp、03-3288-4615）